

三夕 日刊 磐城時報

本報は石城新聞社が編集し、印刷は石城印刷局が担当する。毎朝発行され、価格は毎部十銭、毎月三圓、半年一五圓、一年三〇圓である。

資本金僅か二萬圓で

一ヶ月の収入八千圓

四倉繭市場の好成績

閉鎖した繭價十圓暴落

石城販賣利用組合四倉繭市場は日頃まで行はれるが、同市場で設置以來非常な好成績を収め、九月末日を以て閉鎖し、閉場した。本年春繭時よりはるかの有意義なる事を一般業者者に知らしめ得たが、其後去る八月二十六日から九月三十日まで開いた夏秋繭取引状況を聞くと最初は一萬圓位の取引を豫想したのであるが、實際に於ては總取引額二萬四千七百三十七圓五十九分、この價格十二萬四千三百三十九圓三十七分、人員三千人の多數、達し非常な混雑を呈した。乾繭の都合上開場中二日間の休場を余儀なくされた盛況を見た。出荷者は春繭以來の好評を開いた。大浦、草野、大野、四倉、夏井、神谷、高久等附近町村は勿論の事、郡外双葉郡浪江町以南の富岡、廣野、竜田、木戸、大久、久ノ瀨各町村、田村郡小野新町、遠くは茨城縣磯原町から態々持つて来たものあり、買入の重なるものは田村郡片倉根、船曳、中郡未設置の村は貝泊、荷路夫、村、四倉小口、片倉等各製糸場であつた。取引の最高價格六十八圓七十銭で市價取引價格より十五圓位高價を示してゐた。石城小龍司法主任は三日午前八時、城郡地方の産繭取引は來る二十五十分平繭下り列車で中村署に

磐城高等女学校の校長

十五日頃任命か

磐城高等女学校は櫻井校長死去赴任、新任平署伊藤警部補は二日來任し三日平町各官衙を歴訪の就任の挨拶をなした。

消防設置懸念

貝泊、石住、荷路夫に懸念設置懸念は消防未設置の村に對し設置を懸念中であるが石城村、四倉小口、片倉等各製糸場であつた。取引の最高價格六十八圓七十銭で市價取引價格より十五圓位高價を示してゐた。石城小龍司法主任は三日午前八時、城郡地方の産繭取引は來る二十五十分平繭下り列車で中村署に

伊藤警部補來任

平署が實施されるが、平署管内には加してゐる外他は別に大しな變化はない。

工場安全週間

二日から一週間は工場安全週間が實施されるが、平署管内には加してゐる外他は別に大しな變化はない。

平署で大宣傳

二日から一週間は工場安全週間が實施されるが、平署管内には加してゐる外他は別に大しな變化はない。

及職業工場安全週間實施の心得などを配布し大々的に工場従事者の安全思想鼓吹に努めてゐるが、各職工には安全第一の記した徽章をつけさせ各工場には「整頓」「注意」等記した標を要所に貼布せしめ、其他自動車を宣傳する等大努力を拂つてゐる。

産繭品評會

鹿島村養蠶同業組合支部

鹿島村養蠶同業組合支部は十四日鹿島小學校に於て産繭品評會を催し、成田技手審査する筈である。

書状と電話に悩まされた

九月中の平局

數字に現れた激増ぶり

去る九月は縣會議員選挙があつたため平郵便局は非常な繁忙を極めたが、殊に著しい増加を見たのは普通郵便で引受五十萬四千九百二十八通、昨年度に比較すると三十一萬五千通の増加、配達は三十二萬三千二百七十七通、之亦前年に比較すると十三萬通の増加を見られる。この増加は殆んど全部選挙関係と見るを得、又激増したのは電話で市外へ発信一萬三千七百七十回（前年より四千七百六十二回増）、市外へ着信二萬二千六十回（前年より八千六百八十四回増）、市内總呼数五十四萬七千八百回（前年より十二萬六千六百二十回増）、といふ數字になつてゐる。其他の取扱數左の如く電信が多少増加してゐる外他は別に大しな變化はない。

許嫁の男を嫌つて 活動辯士と家出 實父から搜索願

平禁酒會

講演と映畫會

平町平禁酒會では平警察署、平町青年團、石城郡警部、平町各中等學校、石城佛敎慈善會、平町キリスト敎會、平町青年團、石城郡警部會有志等の應援を得て來る六日午後六時から平劇場に於て禁酒宣傳講演と映畫の會を催はす管で講師は 植竹源太郎、鈴木廣善、石川道彦、成瀬才吉、青木庄藏等が氏、講演後教育、禁酒その他に關した映畫を上映する。

警高女校で

勤儉週間實施

一日から實施した勤儉週間には先立ち縣立磐城高等女學校では如何にしてこの趣旨を徹底せしむるかに就き全生徒から方法を募集した。正副級長會議を開き左の三項目を實行する事とした。 1. 食のパンを廢し辨當持 2. 書食のパンを廢し辨當持 3. 活動寫眞を見ぬ事 4. 遺品なき事

山田青年團總會

山田青年團總會は四日午前十時石城佛敎慈善會、平町キリスト敎會、平町青年團、石城郡警部會有志等の應援を得て來る六日午後六時から平劇場に於て禁酒宣傳講演と映畫の會を催はす管で講師は 植竹源太郎、鈴木廣善、石川道彦、成瀬才吉、青木庄藏等が氏、講演後教育、禁酒その他に關した映畫を上映する。

小學校運動會

泉小學校では男女青年團、聯合して來る八日小學校庭で秋季運動會を催はす。

馬目氏入營

新報社馬目雅治氏は豫備兵役に召集され目下若松市歩兵二十九聯隊に入營中である。

獵解禁日

平獵友會總會 狩獵解禁日は念々來る十五日待たる。

大和田醫院 耳鼻咽喉科 電話一七〇番

時事寸評

平水道竣工、十六日祝賀會を催するに當つて平町内の八十歳以上の高齢者を敬老すも意味で祝餅を贈ると、慥に平水道は永久に水々しい景観を保つて行くことが出来る。 時は秋、狩獵解禁日近づき、狩獵天狗連腕にヨリ、試験を待つ。 今、運動のシーズン、野球、庭球、競技に其の覇を争ひ大に若人の元氣を見せる。 超然として元氣を失せてゐるものは不況の生活難技だ。 選手連、華々しい不況生活の挽回戦か。 十月一日から一週間、勤儉週間。 十月二日から一週間、工場安全週間。 一週間では忘却するから習慣制度を加へよ。

### 平町の 陪審員資格者

(その二)

紺屋町 長谷川伊左衛門、新妻信八、西脇健次郎、大森政雄、根本吉太郎、久野繁次、菅野春吉、水野金七、水竹柳助、吉田宇吉、高木信太郎、山野遊大五郎、圓谷健次郎、關内喜久次郎、山岡宇之助、高野清一、阿部伊三郎、平澤傳吾、高木寅吉、塙幸吉、白井一郎、鈴木清太郎、寺田其彌、佐藤作平、青木榮太郎、會川卯三郎、柳下元吉、草野

軍隊生活の家庭化！これが第一等級の機嫌十年前の兵隊さんの目に強く映る、新兵さんご古兵さんの仲は元の絶体服従(但し悪い意味の)から兄弟關係に變つてゐる、恐い召集兵さんは叔父さん様に變化してゐる、よい時代の變遷だ。窓から、警務の秀峰がよく望まれる、格好のいい柳、立ちならふボブテロの下、勇ましい銃剣術の氣聲が疾いでゐる、軍隊生活も決して今の世では苦しい、無氣味なものでもなくなつた。班内の棚に野菊を挿した一合ビンが飾つてあるのが目に付く。

### 例年の通り

## なべ焼うどん

本日からはじめました  
遠近多少にかゝりわらず出前迅速に致します

平町二丁目横丁(郡役所通)

## 藤寅

電話(呼出)三〇五番

金太郎、高島達、吉田寅之輔、加納五郎、中野長三郎、渡邊榮之助、緒形惟親、小川袋康、織田末松、塙秀治郎、市原源十、材木町 根本幸次郎、中村清助、高田衛、富岡重次郎、川瀬太郎、永野菊彌、中根松次郎、鈴木定藏、鈴木要七、鈴木猪之雄、鈴木義徳、鈴木彦藏、小菅龍吉、小菅藤助、阿部太平、島津松兵衛、草野順平、柳田榮太郎、長瀬富彌、金成泉一郎、石山治三郎、堂の前 瀧澤俊平

柳田氏長途騎乗の首途を祝して  
(短歌) 飯村 開舟  
すこやかに馬のしづめを歩ませ、遠きみちのくさき越ゆる君  
かてやかな其の姿こそ限りなき喜びあふるやまどびどかな、たもかげを里に殘してはるばるとさざめく胸を遠くかしくきみ  
つらきみち變りのみちに鞭打ちて馬のこもつれ長きを思ふ日の本の心をこめて遠きみちすこやかにこころ終り待たる

### 創業三十周年紀念賣出し中御後 援を賜はりし御禮として

◆特賣  
トンカツレツ 各十五錢  
メンチカツレツ 各十五錢  
ライスカレー 各十五錢  
其他相應 じて格安

## 松茸フライ

十一月一日から相始め申候  
洋式宴会 一の井  
仕出し 一の井  
平町田町(電話一六七番)

婦人病血道の妙藥  
強壯の効  
滋養大  
スポンゴ  
信用長命堂  
山野邊藥局  
平町五丁目

警城無盡商會  
本店植田町本丁 支店平町中丁  
◎簡易の金融—誠意—堅實 ◎趣味の貯蓄—共存—共榮  
▲絶へず會員を募ります ▲何時でも御申込下さい  
大藏省 免許  
免許

神戶海上運送火災保險會社平代理店  
共保生命保險株式會社警東代理店  
貸家  
五丁目 勸入向 四・五〇  
柳町 勸入向 五・五〇  
鷹之門 同 六・〇〇  
小島 同 八・五〇  
北白銀 商店向 七・〇〇  
皇月を見ながら 昭和園へ御遊びに被入して下さい  
平町白銀町(電話三三三番)  
加藤丈夫營業所

秋冬帽子  
子供帽子  
鳥打帽子  
中折帽子  
御好品を澤山  
取揃へました  
ツルヤ  
平四

寒さには是非  
毛糸各種  
新荷着  
手編用に防寒具用にイヨク  
需用が激増してまゐりました  
是非御用命を  
三井呉服店  
平町三丁目  
電話三十八番

外科専門  
入院隨意  
上田外科醫院  
南町電二九  
神活  
薬價 壹圓、貳圓、參圓、五圓  
代理 大平屋藥舖  
平一丁目 電話六四二

嚙味と油醬  
山崎合名會社  
東京支店  
電話 下谷五七二番  
振替東京六八三二番  
上野車坂四三三

和洋銅鐵  
金物問屋  
釜屋商店  
警城平 電話一九三九番

金印半天專門  
優秀品の証明  
草野染工場  
警城平町  
電話三四八番  
◎徒弟入用(徒弟契約に付ては年明きに際し有利に御相談申上候)

謹啓母フテ事病氣の處療養不相  
叶九月三十日午後七時死去仕候  
間此段乍略儀以紙上辱知各位に  
謹告仕候  
尙葬儀は來る十月四日午後二時自宅出棺  
大林寺に於て相替み可申候  
十月一日  
平町久保町  
永山和平